代替農薬等の効率的防除技術の開発

【研究概要】

近年、環境保全へ配慮した防除技術や選択性の高い新たな薬剤が上市される一方で、安全性に関する再評価制度の影響などから生産停止や登録抹消により、使用できなくなる薬剤も多い。そのため、生産者や関係機関では、新薬剤・新技術の導入、代替薬剤への切り替えなどの問題を常に抱えている。そこで、新薬剤、新技術および代替薬剤の防除効果を迅速に試験し、得られた成果を直ちに関係機関に提供することを目的に試験を実施した。

（１）環境負荷の低い２剤の農薬の混用によるキュウリうどんこ病の防除効果を慣行の化学合成農薬と比較した。うどんこ病発生初期からの散布により、混用した剤は単独施用よりも高い防除効果を示した。化学合成農薬の使用回数削減につながる防除法の1つとして期待できる。

（２）食品添加物であるミョウバンは、いくつかの菌類病に対して防除効果を有することが知られている。アブラナ科根こぶ病菌への防除効果を検討したが、防除効果は認められなかった。

（３）コウモリと同じ周波数を出すことでヤガ類の忌避を目的とした超音波発生装置を用い、オオタバコガによるスギ苗への被害防止を目的として行った試験は、対象害虫の発生が少なく、効果の判定ができなかった。